



(一面の続き)

教会議)総会のテーマも「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」と決めています。

そして、教皇の命によって教理省から発表された覚え書き「『信仰』のための司牧的指示」の序文では、「『信仰年』は主イエスへの新たな回心と、信仰の再発見に役立つことを望みます。それは、教会に属するすべての者が、復活した主の信頼の置ける喜びに満ちた証人となり、多くの人を『信仰の門』を探すよう導くことが出来るようになるためです」と述べられています。

### 信仰の

#### 門へ再び

#### 四旬節

そこで、広島教区が目標「平和の使徒となろう」の今年と来年(信仰年の期間)のサブテーマを「信仰からの奉仕 信仰への奉仕」と決めました。日本再宣教百五十周年、日本二十六聖人列聖百五十周年という記念すべき年でもあります。広島教区民としても、この

機会に信仰をますます深め、伝え、証していくことができるよう「カトリック教会のカテキズム」を学び、また、日本の宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエルや日本の殉教者たちの模範と取次ぎを願いますよう。

### ザビエルの

#### 十字架きらり

#### 冬の月

イエス・キリストは人となられ、私たち人間と喜びも悲しみも共にし、そして十字架上で死に復活することによって、私たちのために永遠のいのちを勝ち取ってくださいました。この信仰を生きることを学び深め祈りたいものです。これが「信仰からの奉仕 信仰への奉仕」につながり、「平和の使徒となろう」、「新しい福音宣教」という目標達成に至る道であることを確認しあう「信仰年」にいたしましょう。今年の復活祭はもう歩み始めです。

### 仕え合って

#### 仕合わせになろう

#### 復活祭

### 教区の動き

#### 【平和の使徒推進本部もまた動き始めます】

平和の使徒推進本部 本部長 服部 大介 神父



服部 大介 神父

二〇一二年四月から、前田司教より平和の使徒推進本部の本部長の任命を受けることになりました。

推進本部が始まってからずっと信徒の祇山さん(呉教会信徒)が本部長を引き受けてくださり、教区としてもそれを大切なこととしてきましたが、新たな動きとして今回は司祭がその役割を引き継いで行くということになりました。

まずは昨年度にまとめてくださった「ガイドライン」を近いうちに出しますので、改めてこれまでの歩みを見つめ、大切に受け止めて頂きたいと思えますし、教区固有の召命である「平和の使徒」としてのガ

イドラインとして活用できるように提案していく予定です。

平和・きょうどう・養成・多文化共生の推進チームは、各地区でそれぞれの活動を進めておられ、現時点では、教区全体で何かを



### 平和の使徒推進本部

主導していくという状況ではないということから、これまでの推進本部が担ってきた役割も少しずつ変わることになるでしょう。

推進本部の専従職員であったシスター山本の仙台教区への今年度の継続派遣も正式に決定しましたので、本部のメンバーもまた

考える必要があります。具体的に動いておられる信徒の方々に関わって頂き、メンバーになって頂きたいと思っています。

二〇一二年度の教区のサブテーマとして「信仰からの奉仕 信仰への奉仕」ということが決まりました。十月から始まる「信仰年」に向けて、まずは自分たちの信仰の再確認をし、さらには他の人を信仰に導けるようにという前田司教の強い思いもあり、その取り組みへの提案もできればと考えています。

前田司教が教区の最重要課題として出されている「召命」の取り組みとして、「召命担当司祭」の任命がなされました(後藤神父)。さらに青少年情報センターのある広島に在住し、青少年活動に専従する担当司祭の任命も行われました(シエロム神父)。

推進本部としてもこの大切な役割に、共に関わり、後押しをしていく必要を感じています。

広島司教区災害サポートセンターの活動も推進本部



重要文化財世界平和記念聖堂の保存活用活動の現状について報告します。

世界平和記念聖堂が文化審議会の答申を受けて国指定の重要文化財に指定されたのは二〇〇六年七月でした。それから五年半が経過しました。この間、消防法の規定により自動火災報

### 世界平和記念聖堂 保存活用委員会報告

保存活用委員会委員長  
齊藤 眞仁神父

の動きの中で大切に考えることになっていきます。大震災から一年が経ち、これまでの緊急援助から恒常的な復興支援へと支援方法も大きく様変わりしています。多くの情報が現場を含め担当者（原田神父）に送られてきますので、メール配信なども継続していく予定です。管区のセンターとして創られた、大船渡にある「地

ノ森いこいの家」でのボランティア派遣の支援や、教区から派遣されているギャリー神父（淳心念）、シスター山本（援助修道会）、高濱さん（廿日市教会信徒）とも連絡を取りながら、関わりをつなげていきたいと考えています。また新たに動き出した平和の使徒推進本部をよろしくお願いします。

知器などの防災設備工事（二〇〇八年六月～十二月）を行うほか、保存活用委員会を二〇〇八年十二月に司教区本部事務局に設け、聖堂保存のための計画づくりや、聖堂利用のルール作り、聖堂の精神を学ぶ講演会の開催、募金活動などに取り組んできました。また、聖堂の保存修復工事は、多額の費用が掛かるため、文化財保存のための経済的な支援が得られるよう、広島市や文化庁と頻繁に補助金要望などの折衝を行ってきました。これらの結果、文化庁

などから補修工事などについて具体的に検討を進めるよう話しがきています。

聖堂の大規模な保全工事は、これまでに三回実施されています。直近の大規模補修工事は二〇〇一年に実施しています。聖堂と鐘塔を全面的に仮設足場で覆い、コンクリートの柱や壁、コンクリートレンガ、鉄筋、スチールサッシなどの経年的に劣化した部分を主に補修しました。工事費は約一億円でした。当時、三末司教から司教座聖堂の補修について全教区で取り組む呼びかけがありました

が、結果的に幟町教会の結婚式の献金などで費用を賄い、工事が実施されています。

弱アルカリ性のコンクリートは風雨に曝されるとその表面から中性化が進み、中の鉄筋が錆び、やがては、その錆びた鉄筋が膨張し、コンクリートを破壊すると言われています。このため、打放しコンクリート表面に撥水材などの塗布を定期的に行うほか、柱や梁にあるコンクリートの亀

裂から雨水の浸入を防止する必要があり。前回補修から十年が経過し、聖堂内壁に白くなった外壁からの漏水シミや大屋根からの雨漏りが多く見られるようになり。文化庁の指導の下、聖堂の長期存続に必要な保存対策を行う時期がそろそろきています。

また、聖堂は不特定多数の人が出入りする建物であることから、地震に対する防災対策の検討も必要です。文化庁から、耐震診断調査を実施し、必要な耐震対策を検討するよう指摘を受けています。この度の東日本大震災でも鉄筋コンクリートの建物も被害を受けています。特に建物の天井や内壁が落下し、負傷者が出たというニュースも目撃しました。聖堂の天井やステンドグラスなどの部材が崩落し、運悪く下にいた人が怪我をしないような安全対策も検討しておく必要があります。

すでに、保存活用委員会では、司教叙階式などの教区行事に合わせて保存活動のための献金を信徒の皆さま

まにお願いしてきました。各小教区では自分たちの教会の建物などの維持のために、信徒の経済的な負担が小さくないことと思いますが、世界平和記念聖堂が教区民すべての司教座聖堂であることにご理解いただき、保存活用のために献金などのご協力をお願いします。また、幟町教会の信徒の皆さまには、聖堂維持・保全のための維持保全活動や経済的負担について、感謝しあげます。そして、これまで同様、聖堂が長期にわたって健全に保存され、小教区の福音宣教活動が継続されるよう、ご協力、ご支援をお願い致します。十神に感謝。

**被爆で焼け残った「天主六教会」の門柱移設**

聖母幼稚園の改築工事にともない、被爆した「天主六教会」の門柱を移設保存いたします。八月の平和行事までにカトリック会館北口へ設置する予定です。

教区事務局長

原田豊己神父

# 東日本大震災支援

## 広島司教区災害サポートセンター

原田豊己神父



東日本大震災から、早くも一年が過ぎました。いまだに、三千名を超える方々が行方不明となつています。先日の報道で、子どもさんが行方不明のお母さんが大型重機の免許を取得し、パワーショベルを運転して毎日瓦礫を取り除いている姿に思わず息が詰まりました。確実に復興に向かっていると同時に人びとの悲しみがいかに深いものであるかを考えさせられています。

広島司教区災害サポートセンターも大阪教会管区・仙台司教区・日本司教団、カリタスジャパンと連携しながらこれまで活動してきました。当初の週一回のニュースレターを通じて、現地での活動をお伝えし、それにこたえて各小教区が募金などの活動を展開しました。また、他の司教区にさきがけて司教区としてシスター山本、ギャリー神父、高濱さん（廿日市教会信徒）を現地に派遣しました。支援体制も緊急援助から恒常的な支援にシフトし、一月には大阪教会管区が支援の拠点とする大船渡ベース「地ノ森いこいの家」が完成しました。このベースを支えるために、クリスマスに募金をお願いをさせていただいたところ、ある小教区は、数十万円もの支援金を送っていただきました。

現在は、情報をまとめて週一回サポートセンターからお知らせするのではなく、各ベースから送られてくるニュースを必要な方に直接転送しています。（必要な方は、メールアドレスを

のニュースレターを通じて、現地での活動をお伝えし、それにこたえて各小教区が募金などの活動を展開しました。また、他の司教区にさきがけて司教区としてシスター山本、ギャリー神父、高濱さん（廿日市教会信徒）を現地に派遣しました。支援体制も緊急援助から恒常的な支援にシフトし、一月には大阪教会管区が支援の拠点とする大船渡ベース「地ノ森いこいの家」が完成しました。このベースを支えるために、クリスマスに募金をお願いをさせていただいたところ、ある小教区は、数十万円もの支援金を送っていただきました。

をお知らせください）各小教区が、それぞれにきめ細かい支援を身に合った形で行うためです。例えば、物品の購入、小口の物資の送付、励ましの色紙の送付、小教区からボランティアの派遣などです。

広島司教区災害サポートセンター収支報告  
(2011年4月1日～2012年2月29日)

収入	献金	7,200,705
支出	支出合計	2,505,129
	事務運営費	8,160
	振込手数料	8,160
	旅費交通費	136,670
	支援費（派遣者の経費を含む）	2,360,299
	経費	1,196,782
	送料	6,740
	物資購入	156,777
	「地ノ森いこいの家」支援	1,000,000
繰越		4,695,576

広島司教区災害サポートセンター問い合わせメールアドレス  
pax@hiroshima.catholic.jp

行政主導の復興が行われる中で、現地の人々の自立が言われています。しかしながら、行政の支援では目に留まらない人、行政ではできない自立支援が必ずあります。これからますます小さいけれど絶対に必要な支援が求められてきます。そのニーズをくみ取る努力をしていきたいと思えます。

J-CaRM広島便り

もっと合同礼拝、国際的なミサを捧げたい・・・

呉教会 ジエロム神父

（前号からつづく）

日本と外国の信徒が交わり多言語で捧げる「合同礼拝、国際的なミサ」は、いろいろな国の信徒が喜びや、楽しさ、幸せなどを何倍にも分かち合うことが出来ると思えます。国、国籍を超えて、全世界のキリスト者が共に神様に感謝と賛美を捧げることが出来るなら、数多くの信者が大きな喜びを頂くことが出来ると思えます。

実際に多文化の家族に感想を聞くと、「合同ミサは子供たちをはじめ、家族全員に大きな喜びとなります」「合同ミサに参加することによって、皆がもっと楽しく生き生きとできていると感じます」「最初だけが大変だと感じますが、二、三回目に参加すると、もっと楽しく感じ、幸せに前に進むことができます」などのコメントが寄せられています。

私の見たところでは、いろいろな国の信徒が喜んで共に三回以上

聖歌、聖書朗読などを準備出来るなら、国際的なミサを上手く、とても楽しく実践することが出来ました。あるブルックでは、一カ月に一回、共に聖歌の練習をします。ある小教区では一カ月に一回、早く教会に行つて、ミサの前に皆で聖歌を練習します。更に聖歌隊の方々は、ミサが終わつて、お茶の時間を楽しみながら、外国の聖歌と日本語の聖歌を練習します。ある小教区では、土曜日に、いろいろな国の信徒の皆さんが集まって共に幾つかのいろいろな国の聖歌と朗読を練習します。そしてこれらのプロセスは信徒間の交わりを大いに深めるでしょう。

キリストの教会が一致し、一つであることを一般の社会に証をすることにもなる合同礼拝、国際的なミサを、これからもたくさん実践したいと思えます。（おわり）

広島教区 司祭人事異動 (新任地 ← 前任地)

《イエズス会》

アルカラ神父 下関ブロック長府教会担当←北若山教会  
 アレックス神父 宇部・小野田ブロック  
 宇部・高千帆・北若山教会担当・居住変更なし  
 バリヨヌエボ神父 宇部・小野田ブロックメンバー←岩国教会  
 中村健三神父 岩国教会主任←徳山・下松教会  
 清水弘神父 山口教会協力←庚午センター  
 バラ神父 岩徳ブロック下松教会担当←益田教会  
 ヴィタリ神父 益田・津和野教会主任・島根ブロックモデラトール  
 居住は益田教会←麴町教会

オチャア神父 祇園教会助任←麴町教会  
 オレギ神父 岩徳ブロック徳山教会担当・居住変更なし  
 百瀬文晃神父 下関ブロックモデラトール・居住変更なし  
 西山和男神父 島根ブロック・津和野教会助任・居住変更なし  
 牛尾幸生神父 広島共同體院長・居住変更なし  
 モラーレス神父 長束修道院←岩徳ブロック・徳山教会担当  
 桜井彦孝神父 小野田老人ホームチャプレン←福岡修道院  
 塩谷恵策神父 長束修道院←上石神井修道院  
 佐々木良晴神父 東京教区麴町教会主任←山口教会  
 田丸篤神父 東京教区麴町教会助任←長府教会  
 ヘンセラ神父 東京教区 SJ ハウス←幟町修道院  
 カトレット神父 上石神井修道院←祇園教会

《教区司祭》

豊田尚臣神父 幟町教会協力←岡山教会  
 肥塚倅司神父 呉教会主任・広島地区 地区長←広島司教館  
 李尚潤神父 倉敷地域共同宣教司牧チーム←岡山教会

《淳心会》

ジェロム神父 幟町教会協力←呉教会  
 ギャリー神父 仙台教区出向←倉敷地域共同宣教司牧チーム

《フィリピン宣教会》

スティープ神父 岡山教会協力←幟町教会

礼拝会シスターの皆様、二十七年間、ありがとうございました。

広島地区前地区長 後藤正史神父  
 たちと起居を共にしながら、希望への道を歩

この三月三十一日をもって、礼拝会（広島市西区庚午）は広島教区での宣教奉仕活動を終えました。三人のシスターはそれぞれ、新たな任地へと旅立っていました。

ここ広島のに地にあつては、困難な、あるいは複雑な生育環境のもとで苦しんでいる青少年の女性



み、自立の喜びを分かちあつて来られました。共に捧げた感謝ミサの中で、あるシスターは、「ほんとうにどうなるかと思ひ、せつぱつまつた時に、不思議と神様が助けてくださるんです」。また、困窮極まっていた在

住ペルー人たちに寄り添ったシスターは「どんなときにも希望を失わず、神様への全幅の信頼を寄せて前向きに生きる姿にたくさん学

お示しくださいました。また、自立していった方々がそれぞれの職場で、家庭で絆を大切にしておられます。広島を離れたとしても、小さくされた人々とともにあるシスター方の精神は生き続けることでしょう。

司祭・修道者の金・銀祝

- ◆金祝50周年 ◆  
《広島司教区》  
三末篤實司教  
一九六二年三月十九日叙階
- 野間重信神父  
一九六二年十二月二十二日叙階
- 《イエズス会》  
アルカラフェデリコ神父  
一九六二年三月十八日叙階
- 三喜田虎太神父  
一九六二年三月十八日叙階
- モラーレスルイス神父  
一九六二年三月十八日叙階
- バラミゲル神父  
一九六二年七月三十一日叙階

《援助マリア修道会》

シスター 栗谷川せつ子  
一九六二年三月十九日入会

◆銀祝25周年◆

《イエズス会》  
牛尾幸生神父  
一九八七年三月十四日叙階

本の紹介

「なぜ教会は、社会問題にかかわるのかQ&A」

日本カトリック司教協議会・社会司教委員会・編

「社会問題?」「教会がすべきこと?」「教会に許されること?」「なぜ教会が世俗の問題について発言するのか?」「その根拠と基準は何か?」「信仰とどう関係しているのか?」

信徒が抱く疑問に答えるQ&A。すべてのキリスト者は、人となつて世のためにご自分を与えてくださった神の子キリストの生き方を基本とし、その福音を神の愛と救いの力として人々に伝え、それによって人々と社会が内面から変えられるように働きかける使命を与えられています。実際の発言や行動には賢明さが求められるとしても、聖職者は教会が社会問題に直接かかわることについて信者に教える責務を与えられています。本冊子はその一端を果たそうとするものです。

(社会司教委員会委員長「はしがき」より)



①一月十九日(土)、②三月二日(土)

「聖書力講座」〈山口教会〉

講師：雨宮神父

九月九日(日)

「典礼研修会」

〈島根県と山口教会〉

講師：具神父

九月十五日(土)、十六日(日)、十七日(月)

その他行事

「地区宣教司牧評議会」

〈地区事務局〉

五月六日(日)

「地区信徒使徒職協議会」

〈山口〉 五月十三日(日)

「財務・会計担当者の集い」

〈山口〉五月二十七日(日)

広島地区

平和アピール1981

二月十九日、世界平和記念聖堂で「平和アピール1981記念行事」が行われた。平和祈願ミサの後、前田司教の講演、午後から元原発技術者、後藤政志氏による原発の危険性についての講演が行われた。

伯雲フロック

共通なもの取り組み

一級河川斐伊川水系(宍道湖・中海)沿いにある三つの市、出雲・松江・米子は歴史的にも地理的にも共通したものが多くあります。斐伊川は奥出雲町を源流にして雲南市を経て出雲市に流れます。長崎での被爆後も平和を訴え続けられた永井隆博士は三刀屋町出身なので、信仰の先達として追悼と平和を祈念するミサを地元雲南市とともに三教会合同で、毎年九月第二日曜日に開催しています。今日のテーマとしては島根原発があります。松江市中心部が十キロ圏内、出雲も米子も三十キロ圏境界付近です。多様な立場や意見がありますが、原発廃止という司教団のメッセージを待つまでも無く、将来の方向性は明らかです。今後とも様々なテーマの勉強会や津和野乙女峠の巡礼を三教会合同で行う予定です。(出雲教会 河上隆一)

広島教区の施設

⑬

「原爆で壊滅した広島を教育の力で励ましたい」

広島学院中学校・高等学校

一九五六年、カリフォルニア管区など世界中から援助を受けて、イエズス会が古江の丘に本校を創立しました。以来、本校は「四つの宝(勤勉、明朗、敬虔、純潔)」を胸に抱きながら、「他者のために、他者とともに」の精神を教育活動の柱としています。

そのため、本校は、奉仕活動を最も大切な教育活動の一つと考えます。昨年は被災地に多くの生徒がボランティアに赴きました。年



末年始には、毎年、街頭募金活動を実施するほか、釜ヶ崎で、日雇労働者の方々の越冬支援活動(炊き出し、夜回り等)を行います。また、教区の肥塚修司神父様のお世話で、上幟町公園での炊き出し活動のお手伝いをするなど、教区と連携を強める動きも始まりました。大道芸を通じて奉仕活動を行うグループは、各種施設を訪れ、人の喜びが自分の喜びであることを日々実感しています。こうした活動では、自分たちの非力さを感じる場面も多いのですが、温かい出会いの中から、生徒達は、はかり知れない力を頂き、次の活動につなげています。



訪問を行います。物質的には決して豊かではなくとも、生き生きと信仰生活を送るフィリピンの人々からは、「本当の幸せとは何か」を教えてください。

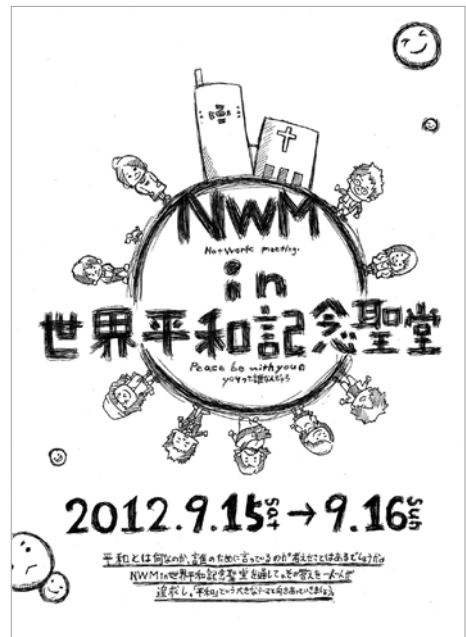
総合学習においては、聖イグナチオの理念に基づいた教育方法(「体験↓内省↓実践↓評価」というプロセスを重視し、物事を徹底的に深く学ぶ学習方法)を、様々なテーマに展開しています。これがIP学習です。右記の奉仕活動、平和・国際理解教育もこのプログラムの中のテーマに取り込みながら、生徒たちは自ら学ぶことの喜びを実感しています。

また、本校は、フィリピンの姉妹校との国際交流を行っています。毎年五月に姉妹校生徒を広島に受け入れ、日本文化やヒロシマを伝えます。夏休みには、本校生徒がフィリピンを訪れ、ホームステイと学校活動を経験し、貧困地域、ハンセン病療養所やマザーテレサの修道会施設等の

弱い立場にある人々のために、弱い立場にある人々に寄り添い、真に平和でありよい社会を目指すことが、本校の使命です。(広報部長 阿部 祐介)

青少年の活動

ネットワークミーティング  
in 世界平和記念聖堂



我が主よ、我が神よ

広島司教館

長谷川儀神父

病のためやむを得ず、司牧の現場を離れて二年が迫ろうとしている今も、一日の時間の多くをベッドで過ごしながらか、近づく叙階記念日に合わせて歩んで来た召し出しの道を、静かに振り返っています。

一九五七年(昭三十二年、はやる心に燃えて四

ひま



<72>

番町哲学院の門をくぐり、八年間の神学校生活が切つて落とされた。院内は規律正しい軍隊生活を思わせるもので、個人の自由は認められていなかった。最初に驚かされたのは、院内に響く合図のベル。これは「神の声」として即従うことであつた。続いて勉強。当時 は教会用語として、必須のラテン語。語学のセンスに欠けている私には大きな十字架。主のご受難に苦しみを重ねて「主よ、あなたに

ネットワークミーティングとは全国の青年が集まり、自由に話し合い、交流ができる場です。

今回のテーマは、Peace be with you について誰なんぢやろう。ミサ中、平和のあいさつを交わす時に「主の平和」と言いますが、英語のミサでは「Peace be with you」とあいさつを交わします。直訳すると「平和があなた

と、あなた達と共に」となります。

平和とは何なのか？そして誰のために言っているのかを考えたことがあるでしょうか。教皇ベネディクト十六世は世界平和の日のメッセージとして「平和とは単に戦争がないというわけではなく、また敵対者間の力の均衡を図るといふことだけではありません。地上で平和が得られるのは、

私をゆだねます。」と必死に祈り、よろめきながら一歩又一歩と前進するのみ。二年間のラテン科時代は、煉獄のことは(ラテン語)による恐怖の授業を中心に、展開された。

と声になる。『それはあなたの帽子掛け。』教室は爆笑の渦。『希望はあつても望みはない。』とどめを刺された最後のことは。このようにして召し出しを試され、謙遜や忍耐の精神を学ばされた。

或る日のこと、ニワトリ教授(本名・リトワニ神父 イエズス会士)と運悪く授業の時、目と目が合った。その瞬間、正面から質問の矢が飛んで来た。頭の中は真っ白。何も答えられない。すかさず次の問い。『あなたの頭はどこ?』答えようがない。苦しまぎれに自分の右手人差し指で頭を示し「ここです。」やっ

今ではこうした出来事も懐かしく、幻の影絵となつて走馬燈のように想い出される。かつては、助けを求めて主に向かい、真剣に祈り耐えていた自分を再発見。自分で自分をほめながら「父よ、あなたのみ手に私の霊をゆだねます。」と祈る日々が今は有効のようです。

NWM in 世界平和記念聖堂 ホームページ  
<http://seinen.hiroshima-diocese.net/~nwm2012/>

各個人の善益の擁護、人間相互の自由な交流、個々人ならびに諸民族の尊厳の尊重、兄弟愛の熱心な実践あつてのことです。」と言われています。現代社会の中で生きている私たち青年がこの世界平和記念聖堂という場で平和について考え、分かち合い、交流を深めていくことはとても素晴らしいことだと思います。

堅苦しい説明になりましたが、楽しく、いろいろな疑問をみんなで分かち合えるような集まりにできたらと現在奮闘中です。ぜひ皆さん参加してください。よろしくお願ひします。詳しくは小教区に配布の案内をご覧ください。

実行委員長 三宅恒大



前田司教様をお迎えして初めての復活祭。これからも司教様とともに皆で神様の道を行くことができますように。(よ)